

## 2004 イタリアスプリングキャンプレポート

期日：2004年3月25日(木)～4月3日(土)

参加メンバー：三井千葉SCJY(1989年度生まれ)安宅広海、生方翼、大倉祐輝、川原慎司、菅健人、黒田翔平、紺野開之、佐久間慧、白澤隆、関谷政志、高柳直矢、辻勇伍、坪田景知、矢吹直士、山田拓巳、小野寺智彦、嶋田修三、藤澤誠、中川裕貴、脇迫翔平、選手20名、コーチ 石川公久、木村考佑

試合結果：三井千葉 vs POLISPORTIVA 89 2 - 0 (得)安宅、生方  
三井千葉 vs EMILIA ROMAGNA 89 3 - 0 (得)川原、生方、菅

三井千葉 vs VOLTANA 87 / 88 4 - 1 (得)生方、藤澤、山田、佐久間

三井千葉 vs BASSANO VIRTUS 89 4 - 3 (得)山田、藤澤、高柳、菅

レポート：三井千葉JYチームが春休みにイタリア遠征を開始して今年で6年目となる。昨年春JY担当となる時にイタリア遠征帯同の話もいただいたのですが、私自身がJYを1年間指導したうえでイタリア遠征に帯同したいと考えたため2年越しのイタリア遠征帯同となった。海外には今まで1996年のイングランドでの欧州選手権・2002年韓国でのW杯観戦と2回程行ったが選手達を引率して海外遠征に行くのは初めてで出発前はやはり不安もあり緊張した

出発当日の天気はどんよりとした曇り空であった。成田空港で選手達と合流した時にはこれから始まる遠征に私も選手達も期待に胸が躍り出発となった。成田出発後、約11時間でコペンハーゲン空港着後、飛行機を乗り換えミラノへ到着。空港からミラノ市内のホテルまでは約30分くらいだったためその移動はきつくなかったが長旅の疲れもありホテル着後選手達はすぐに就寝した。

翌朝、朝食で選手達と会った時には全員睡眠もしっかりとれたようで元気に朝食を食べていた。朝食後モデナで昼食と遠征初戦を行いキャンプの拠点地となるラベンナに向かった。今回のキャンプはポローニャを州都とするこの地域が前週の雪の影響でセリエA以下のリーグ日程も我々が訪問した週内の平日に延期となって行われることとなり、セリエ下部組織同年代のチームとの試合が組めなくなってしまったことで対戦相手のスケジュール内容が変更となり、ラベンナでのトレーニング、および遠方への日帰りバス遠征が多くなる日程となった。バスでの移動時間は選手達には体力的な負担が掛かったかもしれないが、車内では私のアシスタントとして遠征に帯同してくれた木村コーチが選手達に大学生活での話や、通訳の竹口陽さんがクイズ大会を実施してくれてコミュニケーションをとり楽しい時間となった。(黒田がセリエA博士でクイズは全問正解していたのには驚いた)バスから見える風景ものんびりとした自然が多く時間の経過を忘れさせるような感じがあった。

対戦相手に関しては日本で新人戦を鹿島・柏・JEFといったJリーグ下部組織チームとの連戦を重ねてきた事もありセリエ下部組織チームとも対戦してみたかった。4試合イタリアのチームと対戦したが遠征最終戦のBASSANO VIRTUSは州の2位チームで明らかに他のチームとはレベルが上だった。1人1人のキックやトラップなどの精度も高くシン

ブルにゴールへ向い我々の守備ラインの裏を狙ってきた。試合は前半0対3から山田が40M 近くの直接FKを決めてから息を吹き返し4点とって逆転勝利を飾り遠征成績を4戦全勝で終えた。この試合は公開試合とのことで新聞社が来ていて試合途中で両チームの選手・STAFF 全員で記念撮影を行い、私は「日本から来た少年達のために素晴らしい環境のなかで試合をできる機会を与えていただき有難うございます。彼らにとって人生のなかで非常に有意義な経験となるでしょう。」と激励にきてくれた議員や記者にあいさつした。この試合を視察してくれたイタリアサッカー協会セルジオコーチからも「局面での激しさや勝利へのスピリットが背番号10番の選手(山田)を中心に三井の選手達から感じられ、とても良い試合だった。」と評価してくれた。私は今年1年間JYの選手を指導してきて、これまで三井の選手達もっている相手の逆をとる事の中にサッカーの楽しさや本質があることをベースとした上で前線からのプレスやゴール前での粘り強く激しい守備(ボールの取り合いやヘディングの競り合い)攻守の切り替え早さと多少長めのボールも入れた大きな展開もできるようにしたいと練習してきたがこのイタリア遠征でも充分通じていた。ただ攻撃面では単調になるときも多く、相手の力を利用して中央を崩すことができずにいる。これがこれからの課題ではないだろうか。

試合会場は天然芝のグラウンドでロッカールームやシャワールームがありどこも素晴らしい施設であった。選手達は試合前自分達より体格も良く知らない相手で少し弱気になっているようだったため常に声を掛け集中させて試合に臨んだ。試合後は相手チームからケーキの差し入れやおみやげ交換などで選手達も言葉は通じていないが同年代の選手達と交流を積極的にはかり、イタリアに遠征にきて一番有意義なことだったのではないだろうか。

イタリアでは選手を育成していく上で1日1試合しか試合を行わないとゆうことになっているらしい。試合数や時間を長くして選手にケガが出た場合コーチの責任となってしまうそうだ。アップも短時間で行い試合を終えたらすぐにシャワーを浴びて着替える。試合も交代メンバーを入れ全員を1試合の間に出場させていた。我々は20名選手が今回の遠征で参加していたため通訳の方には試合本数や試合時間を多くしてもらえるよう交渉していただき全員を試合に出場させることができたが通訳の方々には本当に感謝している。ラベンナ郊外のクラブでのイタリア人コーチマグリニ氏の練習は基本練習がほとんど中心だった。マグリニ氏は60歳くらいのベテランのコーチでこの地方の少年育成で最も経験がありトライアウトに参加するプロの選手の指導も行っているそうだ。アシスタントに若手のロッシコーチと現役を退いて2年くらいでインテルでの選手経験もあるGKコーチのボッシニコーチが我々の練習を見てくれた。GKの練習も基本的なキャッチングや・セービング、クロスボールの処理などだったが毎回2時間くらいみっちり練習していたのでGK辺には充実していたようだ。マグリニ氏は常に自分で動いて見本をみせ選手に説明していた。キックやボレーなどは非常に正確だった。

ボローニャの練習を見学した時(残念ながら中田選手はW杯予選シンガーポール戦のため不在)練習は2チームに分かれてパスゲームに始まり途中で山道を10本くらいダッシュ

し紅白戦をおこなっていたがプレーのほとんどが1タッチ2タッチでシンプルにプレーしていたがトラップやキックの精度はとても正確だった。セリエAのペルージャvsラツィオ戦も観戦したがやはりパス回しなどはとても速くて強く正確にボールを動かしていた。遠征中、対戦チームのイタリア人選手もあまり長くボールを持つということはなくボール扱いが柔らかいとかドリブルが上手いという選手には正直いなかったように思う。

食事面ではホテルの朝食はパンにフルーツジュース・カフェとゆう程度(イタリア人朝食はあまり食べないらしい)だったが、昼食は全てレストランでパン・パスタ、肉料理や魚料理がでてくるなど豪華であった。夕食もホテルでの食事で昼食と似たような料理だった。ラベンナやボローニャでの市内観光では選手達はイタリア語を駆使して買い物や会話を試みようとしていた。参加した選手にとっては歴史の異なる文化に触れとても良い経験になったのではないだろうか。選手達にはこのイタリアキャンプの経験がこれからの生活や世界観に良い影響を与えることを期待する。また今回の遠征の趣旨に御理解いただき選手をおくりだしていただいた保護者の皆様、キャンプに関してお世話になった関係者の皆様、キャンプ期間中、年度切り換えの最多忙時期に日本で活動していたS T A F Fの皆様に貴重な機会をあたえていただき改めて心より感謝申し上げます。

三井千葉SC石川公久

#### 選手感想文

初めての海外でとても楽しみにしていたイタリア遠征。しかし初日の飛行機が異常に長くホテルに着いたのも夜中であまり良い始まりではなかった。二日目からは試合や練習を毎日のように行いとても充実していた。ぼくはこの遠征でどの位自分の力が通用するのか、どんな所が自分に足りないのか知りたかった。一番足りないと感じたのは技術的な事ではなく体格的な事だった。イタリア人は同じ学年でも身長が高くスピードも勝てない部分もあった。でも僕達のチームはイタリアのチームよりまとまっていたし、技術的にも勝っていたと思う。だから高校生と試合しても勝てたし結果的に全勝で終われたと思う。イタリア人コーチの練習はあまり楽しいものではなかったがこれから自分がもっと上達するためには役にたつ練習だったかもしれない。セリエAの試合観戦はとても良い勉強になったしサポーターの雰囲気も日本とは異なり面白かった。観光の時間はあまりなかったがピザやパスタを味わえて良かった。これからの目標は外国人にも負けない身体を作り技術的にも向上する事、キャプテンとしてチームの役に立てるようにがんばりたい。この遠征でちょっと自信がついたし、イタリアでプレーしてみたいという気持ちもでてきた。だから僕にとってこの十日間はとても意味のある期間だった。こんなに良い経験が出来たのは生まれて初めてだしこれが最初で最後かもしれない。遠征費を払ってくれた両親や遠征中お世話になった人達には感謝しています。

山田拓巳

遠征最終戦、前半ミスから0対3となり目標の全勝もあきらめかけたその時ハーフライン付近からのFKをキャプテン山田が何の迷いもなく足を振りぬきゴールを決めた。その瞬

間皆の心の中に絶対に勝つとゆう気持ちが生まれた。ゴールが見えたら打つ。自分が決める。絶対勝つ。この気持ちが本当に強かった。気持ちの強さはすぐに結果に表れた。0対3から4点奪い、4対3で勝利した。相手が背も高く、体格の良いイタリア人にも気持ちの強さは通用するとゆう事を知れただけでもかなりの自信がついた。ポローニャの練習も見学したが中田は日本代表の試合のため不在だった。だがシニョーリとパリュウカを生で見えて感動した。イタリアに長く滞在しているとイタリア人との交流が楽しくなってくる。試合が終わった後のプレゼント交換や街でのコミュニケーションを楽しんでいた。イタリア人は日本人=中田みたいなイメージがあるからナカタ・ナカタと皆が言う。中田は本当にすごいと思った。

安宅広海

イタリア遠征は長くて短かった。イタリアチームとの試合、セリエA観戦など自分にとっていい経験でした。イタリア人コーチによる練習は三井で行っている練習と変わらず驚きました。全試合を通じて自分はボールを要求し裏への飛び出しを行えばもっと得点にからめると感じました。この遠征を活かして3年時のクラブ予選や高円宮杯などの大会で活躍していきたいです。

生方翼

十日間イタリアで過ごしてみて日本とは環境が異なり少しとまどったりしたけどいい体験ができました。チームとしては全勝できて良かったが自分のプレーはあまり良くなかったのでイタリア人コーチに教えてもらった事を忘れずに今後の練習や試合に活かしていきたい。疲れたけど本当にいい体験ができました。

大倉祐輝

イタリア人コーチの練習ではまず基本技術を練習した。最初はつまらないと思ったが大事な事だからまじめに練習した。シュート練習ではゴールの枠には入るけどGKに止められてしまった。イタリアチームとの試合ではヘディングで得点できこの遠征で一番印象に残っている。イタリア遠征での経験を活かしもっと上手になりたい。

川原慎司

イタリア人コーチの練習は基本練習が多く最初はあまり真剣に取り組まなかったが、練習後に石川コーチから何気ない基本練習を正確にしっかり取り組む選手程、レベルが高いと言われた事が心に残りその後は真剣に行った。イタリアチームとの試合では全勝で自分でも2得点できたのは自信になった。ポローニャの練習はパスゲームなど三井と変わらない練習だったが正確で全然違うものに見えた。自由行動では見飽きないイタリアの街に圧倒されたがやさしい人々に助けられた。この遠征では移動時間の対処を実感できた。菅健人

イタリア遠征ではたくさんの事を学べた。イタリアの文化、サッカー、交流、生活、他にもいろんな大切な事を目で見て体験できた。サッカー面でもイタリア人のコーチ指導を受けこれから自分がどんなプレーがしたいのか少し見えてきたし自信もついた。いつまでも

イタリアにいたいと思った。人との交流の力はすごいと改めて感じた。 紺野開之

イタリアで一番感じたのは集中力の高さでした。練習は同じでも取り組む姿勢などが僕達との違いだなと感じました。日本に帰った後も練習に集中しロングキックの精度、ヘディングの競り合い、1対1の強さなど向上させていきたい。セリエAのラツツイオvsペルージャ戦試合観戦も印象に残りました。僕の予想はあまり良い試合にならないだろうと思っていましたがサポータの熱狂ぶりも凄く、試合も予想とは反対でおもしろい試合となり時間を忘れてしまいあっとゆう間に試合終了となり、何てセリエAは楽しいのだろうと思いました。イタリアに来てとても良かったです。 黒田翔平

イタリアでの十日間は長いようで短く非常に充実した日々であった。イタリア人コーチの練習は予想に反して日本でやっているのとあまり変わらず驚いた。日本とイタリアは同じような練習をしているのにイタリア代表が強いのは練習に対する取り組み方の違い・集中の仕方だと思う。日本に帰ったらこれまで以上に集中して練習に取り組みたい。サッカー以外では文化や現地の人々と交流ができ良い経験ができた。 小野寺智彦

イタリア遠征はとてもいい勉強になりました。4月から行われる公式戦にむけチーム全員でがんばれた事です。遠征中、僕達は互いに話し合い戦っていく強い気持ちを持ちました。イタリアのチームにも全勝しすごい自信となりました。この経験を活かし僕達はもっと強くなりたいです。 佐久間慧

イタリアは日本と異なる事が色々ありました。食べ物はまあまあうまかったです。特に最後の昼食に食べたピザがとてもうまかったです。イタリアチームとの試合では外国人と闘うという緊張感があり心配だったけど自分では結構良いプレーが出来たと思います。そして一番凄かったのはセリエAの試合観戦です。とても迫力があり試合内容もサポーターも凄かったです。イタリアで学んだ事をこれからの練習や経験に活かせるようにしたいと思います。 白澤隆

イタリア遠征はとても貴重な体験だった。まずあんなに長い時間飛行機で過ごしたのは初めてだった。ホテルでも楽しく過ごせた。ただ湯船がなかったのは辛かった。イタリア人コーチの練習は日本と同じような練習をした。ただ取り組む姿勢が異なるのだと思う。あとイタリア人はとても体格に恵まれているのが印象に残った。このような経験はもうできないと思うので絶対に忘れないでいきたい。 嶋田修三

イタリアに行くまでの飛行機が辛い。成田からコペンハーゲンまで行き、さらにミラノまで行く。飛行機だけでこんなに疲れるなんて思わなかった。練習はそれほど疲れなかった。

しかし、ボールの感覚がゆっくりやることでつかめたと思う。ゾーンディフェンスもオーバーラップなども教えてくれた。試合では初めて外国のチームと対戦したので緊張した。見た目はかなり強そうだったが実際戦ってみると同じくらいの力だった。個人的にはうまくいかなかったが全勝できて良かった。イタリア遠征で一番心に残っているのはセリエAの試合観戦だ。日本の試合しか生で観戦したことが無いのでどんなに凄いか楽しみにしていた。スタジアムに入場しサポーターが大勢いた事に驚いた。皆がサッカーを愛しているように見えた。試合はラツィオの勝利に終わったが良い試合だった。セリエAの選手達のプレーを盗み、今後使ってみたいと思う。ポローニャの練習も凄い。普通の試合をダイレクトパスで細かく繋ぎシュートまでもっていついていた。とても正確でとても簡単に行っているプロのレベルに驚いた。イタリア遠征は自分のサッカーにプラスになったと思うしアウェーの厳しさ、他国のサッカーのやり方が理解できた。良い経験になった。関谷政志

この遠征の抱負は他国のサッカーを知り、自分のものにする事と初めての外国なので日本との違いを勉強し他国の言葉を学ぶことだった。十日間、ケガもなく、イタリアチームとの試合で色々な事を得て、イタリア人との交流を通じてたくさんの事を学んだ。とても良い体験だったし思い出にもなった。精神的にも肉体的にもとてもよく成長したと思う。十日間、仲間といっしょでとても楽しかった。 高柳直矢

イタリア遠征でたくさんの事を学ぶことができました。全く知らない街を歩き、言葉が違う人と話をしました。日経つにつれなんとなくわかってきたような気がします。この遠征での経験を活かしこれからもがんばっていきたいと思います。 辻勇伍

今まで飛行機に乗った事がなく楽しかったけど11時間も乗り時差もあってすごく疲れた。試合は全勝で終わることができました。ポローニャの練習を見学に行ったが中田がシンガポール戦のため不在で残念でした。遠征中、印象が残ったのはセリエAの試合観戦でした。今回こうやってイタリアに行けたのは親のおかげなのでとても感謝しています。ただいったのではなくイタリア人の上手だったプレーなどを真似してこれからもがんばりたい。 坪田景知

イタリア人はとても体格が良く、試合は最初緊張したけど慣れてくるとだんだん本来のプレーができるようになりました。最後の試合は相手も強くあまりうまくいかなかった。イタリア人のコーチも自分で動いて見本を見せて、とてもわかりやすく、大事な事を教えていただきました。これからもこの経験を活かしてがんばりたいと思います。 中川裕貴

イタリア遠征で一番学んだ事は、長い移動時間をいかにいかに我慢して集中力を保てるかとゆう事です。とにかく移動の時間が頭に残っている。遠征の最初の頃はバスの中ですで

に集中力が切れてしまい全く自分のプレーができずとても悔しかった。でも中田選手をはじめ海外で活躍している選手達は皆、このような環境で1年間リーグ戦を戦うことを考えると凄と思うのと同時に自分も絶対やってやるぞという気持ちになった。ボローニャの練習を見て自分のポジションでは味方からボールをもらう位置と1タッチ目のボールの置き場所を上手にならないといけないことがわかった。試合中その事を頭に入れプレーしたら試合中何本もいいパスがだせた。イタリアの料理はまずくないがすぐに飽きてしまいカップラーメンがすごくおいしく感じた。イタリアで学んだ事を三井で最後の年に活かしてがんばる。

藤澤 誠

イタリア遠征で貴重な体験や楽しいことを経験できてとてもうれしかった。イタリア人コーチの練習ではユーモアのあるコーチのもとで練習しました。でも練習内容は日本とあまり変わらないにもかかわらずイタリア代表と日本代表、セリエAとJリーグの差があまりにも大きいことを考えるとイタリア人の練習に対する真面目さなども見習わなければならないと思いました。試合は僕自身あまり調子が良くなくコンディションを整えることの大事さがよくわかりました。食事はピザがとてもおいしかったです。今回のイタリアでの経験活かしこれからもがんばっていきたいと思います。

矢吹直士

このイタリア遠征で中田選手をはじめ海外でプレーする日本代表選手の苦労がわかった気がします。海外でプレーする選手は何回も飛行機で移動します。サッカーのプレーだけでなく耐えることも必要だと思いました。自分は三井の試合だけでなくヴェルディ相模原の試合にも帯同し2得点入れることができ満足のいくものだった。セリエAの試合を見てとても興奮した。また生で試合を見たい。僕のサッカー人生でイタリア遠征は忘れられない経験になったと思う。大人になってからもイタリアでサッカーをしてみたい。

脇迫翔平  
以上帯同選手20名の感想文